

世界を結ぶ言葉

～エスペラント～



エスペラントとは、今から120年以上前に、人工的に作られた国際共通語で、「希望している人」という意味です。
地球の人々を結ぶ言葉として、「地球語」とも呼ばれるエスペラントについて紹介します。



みろく博士

『銀河鉄道の夜』というアニメーション映画に、エスペラントが使われているのを知っていますか？
このアニメは宮沢賢治の童話が原作で、副題に「Nokio de la Galaksia Fervojo」とエスペラントが使われているほか、映像に出てくる文字はすべてエスペラントで書かれています。
ジョバンニが通う学校の黒板や、町中のネオンサインなど、あちこちにエスペラントの文字が登場しています。

また、平成24年に放映された『ドラえもん のび太と奇跡の島』のニマルアドベンチャーには、エスペラントを話す「ロッコロ族」が登場します。
舞台となる島「ベレーガモンド」の名前もエスペラントで、「非常に美しい世界」という意味です。
いつか、世界に配信されるアニメや映画の吹き替えや字幕に、エスペラントが採用され、さまざまな人が同じ映画を楽しめるといいですね！

アニメに登場する
エスペラント

サル-ton
Saluton!
(やあ！こんにちは！)



大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>

Blank area for contact information, with a decorative star graphic in the top right corner.



ダンコン Dankon (ありがとう)



ボ-ネ Bone! (いいね!)

★ Esperanto ★



【Esperanto碑】(京都府亀岡市・天恩郷)
Unu Dio (一つの神)
Unu Mondo (一つの世界)
Unu Interlingvo (一つの国際語)
と刻まれている

ボ-ナン マテ-ノン Bonan matenon (おはようございます)

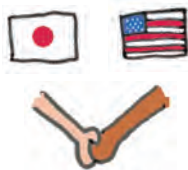


ボ-ナン タ-ゴン Bonan tagon! (こんにちは!)



Esperantoとは?

「Esperanto」は、ポーランドのユダヤ人眼科医ラザロ・ルドビーコ・ザメンホフが提案した国際共通語です。
各民族の言語や文化を尊重し、大切にするとともに、それぞれの言語や文化の橋渡しの役目を果たすことを目的として作られ、世界各国で多くの人に使用されています。



例えば、日本人とアメリカ人が会話する時、英語を使うなら、日本人が英語を勉強しなくてはなりません。その上、英語が母国語のアメリカ人と対等に話すには、相当の語学力が必要です。

さらに、世界中の人々と対話してゆくためには、多くの言語を習得しなくてはならず、そのためには多くの労力と時間が必要となります。

そこで、国際共通語、Esperantoの出番です。

Esperantoは、特定の国の言葉ではありませんから、お互いに公平に学習し、交流ができるようになります。

Esperantoは政治、宗教、民族の垣根を越え、世界を一つに結ぶ言葉なのです。

Esperantoの特徴

Esperantoの特徴は、

◎単語の語尾で、品詞の区別がつかやすい

◎文法のルールが単純で例外が少ない

これによって、世界中の人々が比較的簡単に習得することが出来ます。

現在、Esperantoを話す人(Esperantist)は日本に約2万人、世界では約100万人といわれています。



【ラザロ・ルドビーコ・ザメンホフ】(1859~1917)

ザメンホフが生まれたポーランドは、ロシア帝国の支配のもと、複数の民族の争いが絶えない状況にあった。そんな体験をもとに、ザメンホフは互いに公平な立場で使用できる言葉を希求、国際語「Esperanto」が誕生させた。

豆知識

「Esperanto」はペンネームだった!

Esperantoは、1887年「国際語」(Lingvo internacia)というタイトルの小冊子で発表されました。著者の名前は、「Esperanto博士」(Doktoro Esperanto)。これは、ザメンホフのペンネームでした。

当時、数々の国際共通語が発表される中で、「Esperanto博士」が提案した「国際語」が注目されるようになり、「Esperanto」と呼ばれるようになりました。



大本とEsperanto

大正12年(1923)、大本は人類愛の精神に根ざしたEsperantoに注目、積極的に学習を奨励し、同年6月28日にはEsperanto研究会(現在のEsperanto普及会)が設立されました。出口王仁三郎聖師は、Esperantoの単語を歌により込んだ歌集『記憶便法英西米蘭統作歌集』を作りました。その歌は、

朝寝して一足おくれ停車場へ
友のあとから一寸マテ-ノ(朝)
というようなユーモアにあふれており、子供から大人まで親しまれました。

大本の教典のひとつ『道の栞』はEsperantoで翻訳され、それを元にポルトガル語版、英語版、ロシア語版、韓国語版、ハンガリー語版などが作られています。



Esperantoを 学びたい方へ

大本には、Esperanto普及会(EPA・京都府亀岡市)という団体があり、Esperantoの普及宣伝につとめています。

毎年年末から年始にかけて「越年Esperanto研修会」(京都府亀岡市・大本本部)、5月には「EPA関東Esperanto合宿」(東京都台東区・大本東京本部)を開催しています。また、各地方支部では定期講習も開催しています。

Esperantoに興味のある方は、Esperanto普及会にお問い合わせください。

Esperanto普及会事務局
0771(56)9074